

事業計画書（記載例）

1. 申請者情報

氏名	五戸 太郎	生年月日	昭和・平成	3年	5月15日
連絡先住所等	〒039-1513 青森県三戸郡五戸町字古館〇〇-〇				
	TEL	0178-62-〇〇〇〇	FAX	-	
	Email	taro.gonohe@example.com			

2. 申請者の略歴等

職歴	平成26年 3月	〇〇調理師専門学校 卒業
	平成26年 4月	八戸市内 和食料理店「〇〇」入社（調理担当）
	令和 3年 4月	同店 副料理長 就任
	令和 7年 9月	同店 退職

[過去の事業経験]
事業を運営していたことはない
事業を運営していたことがあるが、すでにその事業をやめている。又は、一度やめて再度創業した。
（⇒事業内容： ）
（⇒やめた時期： ）

3. 起業概要

事業内容	地元食材を活用した定食・総菜の提供及び惣菜のテイクアウト販売
業種	日本標準産業分類中分類 業種名：飲食店 大分類：宿泊業、飲食サービス業
主たる事務所の所在地	〒039-1500 青森県三戸郡五戸町字〇〇 ●●-●
役員・従業員数等	合計：_____1名 (内訳) ①役員等：_____1名 ②従業員：_____0名 ③パート・アルバイト：_____0名
資本金 ※法人の場合のみ	一千円 (内大企業からの出資： _____ 千円)
本事業実施に係る 許認可・免許等の必要性	<input checked="" type="checkbox"/> 必要 <input type="checkbox"/> 不要 (該当に✓) ※必要な場合 取得 (見込み) 時期 令和8年2月
	許認可・免許等名称 飲食店営業許可 (食品衛生法)、食品衛生責任者
フランチャイズ契約の締結を伴う事業か <input type="checkbox"/> はい <input checked="" type="checkbox"/> いいえ (該当に✓)	
開業・法人等概要	開業届出日・法人等設立登記日 令和8年3月1日
	屋号・法人名等 ごのへ食堂
	事業形態 <input checked="" type="checkbox"/> 個人事業 <input type="checkbox"/> 株式会社 <input type="checkbox"/> 合同会社 <input type="checkbox"/> 合名会社 <input type="checkbox"/> 合資会社 <input type="checkbox"/> その他 (_____) (該当に✓)
	決算年度 <input type="checkbox"/> 3月 <input type="checkbox"/> 6月 <input type="checkbox"/> 9月 <input checked="" type="checkbox"/> 12月 (該当に✓) ※個人事業主は12月に✓

4. 事業内容

ビジョン・目標	五戸町の豊かな食材（倉石牛、長芋、にんにく等）を活かし、地元住民が日常的に利用できる「まちの食堂」を目指す。観光客にも五戸の食文化を発信し、3年以内に月商100万円を達成する。将来的にはテイクアウト惣菜の通信販売を展開したい。
事業コンセプト	商品・サービスの内容 日替わり定食（ランチ800円～、ディナー1,200円～）：五戸産食材を中心に使用 惣菜テイクアウト（300円～800円）：高齢者世帯や共働き世帯の需要を見込む 季節等の特別メニュー：倉石牛すき焼き定食、馬肉鍋定食
	ターゲット市場・顧客 メイン：町内の住民（特に昼食需要のある勤労者、高齢者世帯） サブ：近隣市町村からの来訪者、観光客（まつり等のイベント時）
販売・仕入れ計画	販売計画 ランチ営業（11:00～14:00）：平日25食/日、休日35食/日 ディナー営業（17:00～20:00）：平日15食/日（土日休） テイクアウト：10パック/日 定休日：毎週日曜日、祝日
	仕入計画 野菜・果物：町内産直施設及び地元農家から直接仕入れ 精肉：町内精肉店より仕入れ その他：八戸市内業務用食材卸より仕入れ 原価率目標：40%

5. 販売戦略

現状分析	<p>①市場調査 五戸町は人口約15,000人で、町中心部には飲食店が限られ、特に日替わり定食を手ごろな価格で提供する店舗が少ない。高齢化率が高く、調理が困難な高齢者世帯の惣菜ニーズがある。また、近隣市町村からの通勤者の昼食需要も見込める。</p> <p>②競合分析 町内の飲食店は主にラーメン店や居酒屋中心。定食を日常的に提供する店舗は少なく、テイクアウト惣菜を取り扱う飲食店も少ない。価格帯800円前後の呈色は競合が少ない。</p> <p>③自社分析 強み：調理師専門学校卒業、和食料理店での11年の実務経験（副料理長経験あり）。地元出身のため、地域住民とのネットワークがある。 弱み：経営経験がないため、特定創業支援等事業による経営ノウハウの習得で補完する。</p>
販売戦略	<p>①価格設定 ランチ定食：800円～1,000円 ディナー定食：1,200円～1,500円 テイクアウト惣菜：300円～800円</p> <p>②販売チャネル（販売方法） 店舗での直接販売（イトイン・テイクアウト） 将来的にネット通販（冷凍総菜）も検討</p> <p>③マーケティング手法（事業の周知方法） 開業チラシのDM SNSによる情報発信 地域施設でのポスター掲示 イベントへの出店による認知度向上</p>

6. 財務計画

6-1. 資金調達計画

【別紙】

6-2. 損益計画

【別紙】

6-3. 簡易資金繰り計画

【別紙】

損益計画数値の考え方

※売上・費用の算出根拠を具体的に記載してください。

(例：単価×数量、来客数想定、契約件数等)

【1年目（令和8年）】

ランチ：@900円×25食/日×24日/月×10か月（3月開業のため） = 5,400,000円
 ディナー：@1,300円×12食/日×20日/月×5か月（下期から稼働予定） = 1,560,000円
 テイクアウト：@500円×8パック/日×24日/月×5か月 = 480,000円
 合計（概算）：7,440,000円 控えめに7,200,000円

【2年目（令和9年）】

ランチ：@900円×25食/日×24日/月×12か月 = 6,480,000円
 ディナー：@1,300円×12食/日×20日/月×8か月 = 2,496,000円
 テイクアウト：@500円×8パック/日×24日/月×8か月 = 768,000円
 合計（概算）：9,744,000円 控えめに9,600,000円

【3年目（令和10年）】

ランチ：@900円×25食/日×24日/月×12か月 = 6,480,000円
 ディナー：@1,300円×15食/日×20日/月×12か月 = 4,680,000円
 テイクアウト：@500円×8パック/日×24日/月×12か月 = 960,000円
 合計（概算）：12,120,000円 控えめに12,000,000円

売上原価：原価率40%（食材仕入れ中心）

人件費：1年目は代表者のみ（個人事業主のため人件費計上なし）。2年目からはパートタイム1名（月10万円）、3年目からはフルタイム1名（月20万円）を雇用予定。

家賃：月額60,000円（空き店舗を賃借）

減価償却費：厨房設備1式300万円（対象年数8年・定額法 37.5万円/年）+内装工事200万円（耐用年数10年・定額法 20万円/年）計55万円/年

広告費：1年目は開業チラシ・SNS広告等で30万円。2年目以降は認知定着に伴い縮小。

【注意事項】

- ・資金調達計画、損益計画、バランスシートの数値は整合させてください。
- ・借入を行う場合は、資産に計上してください。
- ・利益は自己資本（純資産）に反映されますが、個人事業主の場合は事業主の生活費等の引出し（事業主貸）により純資産が増加しない場合があります。

7. 雇用計画

1年目(創業した年)	フルタイム__0__人	パートタイム__0__人
2年目	フルタイム__0__人	パートタイム__1__人
3年目	フルタイム__1__人	パートタイム__0__人

※事業に従事する人数を計上。株主などで事業に直接従事しない者は含まない。

また、2年目以降で雇用を増やす見込みがある場合は、何年目かも併せて記載すること。

当初従業員の採用状況	1年目は代表者のみで運営するため、採用予定なし。
新規雇用を行う場合の雇用の判断及び募集方法	月商が80万円を安定的に超えた段階で、各種求人広告を通じて募集を行う。 地元居住者を優先的に採用する方針。 なお、パートタイムではホール・洗い場補助を行わせ、フルタイムでは調理補助に切り替え予定。

8. 起業理由

八戸市内の和食料理店で11年間修業し、副料理長として店舗運営にも携わる中で、自分の腕で地元・五戸町に貢献したいという思いが強くなりました。

五戸町は倉石牛をはじめとする優れた食材の産地でありながら、町中心部で日常的に利用できる飲食店が減少しています。特に高齢者世帯や共働き世帯にとって、手頃な価格で栄養バランスの取れた食事を提供する場所は地域の暮らしに不可欠だと考えます。

9. 交付金活用等

①地域の振興

地元農家・精肉店・直売所から食材を仕入れることで、町内の農業・畜産の販路拡大に寄与します。地産地消の推進により、五戸町の食のブランド力向上に貢献します。

②雇用拡大

2年目以降、パートタイム・フルタイムの従業員を地元から採用する計画です。3年目には2名体制(代表者+フルタイム1名)を目指します。

③若年層に町への回帰を促す

自身がUターン起業者として成功モデルとなることで、町外で働く若者に「五戸町でも起業できる」というメッセージを発信します。

④地域経済の活性化

町中心部への来客増加により、周辺商店街への波及効果が期待できます。地元イベントへの出店を通じて、まちのにぎわい創出に貢献します。

⑤交付金の活用方法

支援金は、開業時の厨房設備(業務用冷蔵庫、ガスコンロ、食器洗浄機等)の購入費用の一部に充当します。設備投資の自己負担を軽減することで、開業初期の資金繰りを安定させ、事業の早期軌道化を図ります。